

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成24年10月29日現在

### 活力ある新産地づくり

#### ■ブロッコリー 生育は順調、早生種の出荷始まる

9月中旬の大雨、下旬の台風により一部で定植作業が遅れ、大垣部会が10月9日、不破部会が10月3日、安八部会が9月28日、海津市では9月26日に定植が終了している。

大垣部会では、10月定植分について中晩生品種に変更して対応しており、現在、8月中旬定植の「ピクセル」が出蕾し、昨年と同時期の10月22日から出荷が始まった。

ハスモンヨトウ被害の防除対策とともに、9月上旬定植の一部ほ場で発生した枯死株について、補植や防除の実施を支援しており、発生原因が不明な障害については、今後原因を特定し、対策を講じることとしている。

### 売れる農畜産物づくり

#### ■水稲 水稲の収穫状況

主力となる普通期ハツシモの収穫も、ほぼ終了を迎えている。ハツシモは大粒で、刈り遅れにより胴割米が発生しやすいため、青籾率が5%を切る前に刈り取りが終了するよう、適期収穫による品質確保について支援してきた。

今年の水稲は、田植え直後からの低温気味の気象推移により、出穂期ピークは9月2日～3日と、平年より2日遅れとなった。茎数・穂数ともに平年よりやや少なめながら、有効茎歩合は高く、8月～9月の天候に恵まれたことから登熟は順調に進み、平年並みの作柄は確保できる見込みである。

#### ■大豆 大豆の収穫に向けて

大豆フクユタカは、10月後半に入って葉の黄化が始まり、早いほ場では全面が黄化しつつある。一部ほ場で、ハスモンヨトウの被害、集中豪雨による倒伏、帰化アサガオ類等の難防除雑草の繁茂などの障害も発生しているが、着莢状況は良好で、平年よりやや多めの収量が確保できる見込みである。

今後は、JAとの連携のもと、ほ場巡回による情報提供や共同乾燥施設稼働会議を踏まえた地域ごとの利用計画の作成により、適期・適切な収穫を支援することとしている。

#### ■トマト 池辺園芸トマト組合研修会の開催

10月16日に、池辺園芸トマト組合の第1回平成25年産栽培研修会が開催され、生産者全員12名の参加があった。

農業普及課からは、生理障害、灌水、肥培管理、病虫害対策を中心に、冬期に向けた栽培管理について説明した。今後は、営農アドバイザーらと定期的に巡回を行い、適切な栽培管理について支援していく予定である。



【研修会の様子】

#### ■トマト 海津トマト部会で平成25年産の栄養診断を開始

海津トマト部会では、植物体の硝酸態窒素濃度を定期的に測定し、栄養診断に基づくタイムリーな肥培管理の取り組みを開始してほぼ5年が経過し、生産者に根付きつつある。

昨年からは、先進地視察の結果を参考にして、硝酸態窒素に加え、リン酸やカリの測定も実施しており、平成25年産は、生育初期から分析データを活用する初年となる。今後、高単収者の診断値等からリン酸、カリの基準値の設定を検討する。

## ■きゅうり 天敵利用巡回研修会等を開催

10月4日に、黄化えそ病ウイルスを媒介するミナミキイロアザミウマの防除対策として、天敵（スワルスキーカブリダニ）利用巡回研修会を開催し、天敵の定着状況やミナミキイロアザミウマの寄生状況を調査し、今後の防除計画等の検討を行った。

天敵利用の農家数は9戸、面積は2.3haに拡大し、現在のところ、大部分のほ場でミナミキイロアザミウマの発生は少なく抑えられている。また、10月10日に開催された海津胡瓜部会抑制栽培の巡回研究会でも、黄化えそ病対策や今後の栽培管理等について支援している。

## ■かき 今年は豊作、出荷に向けて支援

かきの生育状況は、カメムシ、ヘタムシ発生注意報が発令されたものの、病虫害や台風の被害も無く、去年の倍以上の収量が期待される。

農業普及課では、10月10日南濃町柿研究会、12日養老町果樹振興会役員会において、豊作基調だが、果実肥大・着色が遅れており、家庭選果、着色度の確認を徹底し、柿のおいしさを広く消費者に知ってもらうよう、情報提供を行った。



【南濃町柿研究会役員会】

## ■バラ 秋出荷、夏の高温の影響を受ける

秋はブライダル等の需要期のため、高価格につながる時期であるが、夏の高温の影響もあり、出荷本数が例年に比べやや少ない。

農業普及課では、ロックウール栽培の養液分析診断を月1回実施しており、その結果を踏まえて、10月30日に、神戸町バラ生産組合員、農業技術センター職員とともに各ほ場を巡回し、栽培管理の点検を行う予定である。



【バラ温室の生産状況】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■女性組織 女性農業経営アドバイザー活動支援

10月16日に飛騨地域において、GLAMAいきいきネットワーク視察研修会が開催され、西濃ブロックからは14人のアドバイザーが参加した。高山市の飛騨酪農農業協同組合、飛騨地域アドバイザーのトマト・ほうれんそう経営を視察し、交流会では会員の情報交換を行った。また、農業普及課から、車中において、1月に開催予定の西濃ブロック研修会の運営について支援を行った。



【トマト栽培の視察研修】

## 県民みんなで育む農業・農村

### ■農業体験・食育 学校園で獣害対策の支柱立て

10月22日に、海津市南濃町城山小学校の5年生65人が、学校柿園で獣害対策の支柱立て作業を行った。

今年は、学校園も豊作で、児童の管理作業体験を実施しやすいよう、低めに仕立てられた枝には、たくさんの果実が成り、地面に着くほど垂れていた。

この地域では、昨年より更に鹿等の食害が増加しているため、当初の計画では想定していなかった、支柱立てによる枝の引き上げを行うことになった。農業普及課から、獣害対策のための枝吊りの必要性について説明し、JAにしみの南濃選果場職員と共に実技指導を行った。



【柿の枝吊り作業】